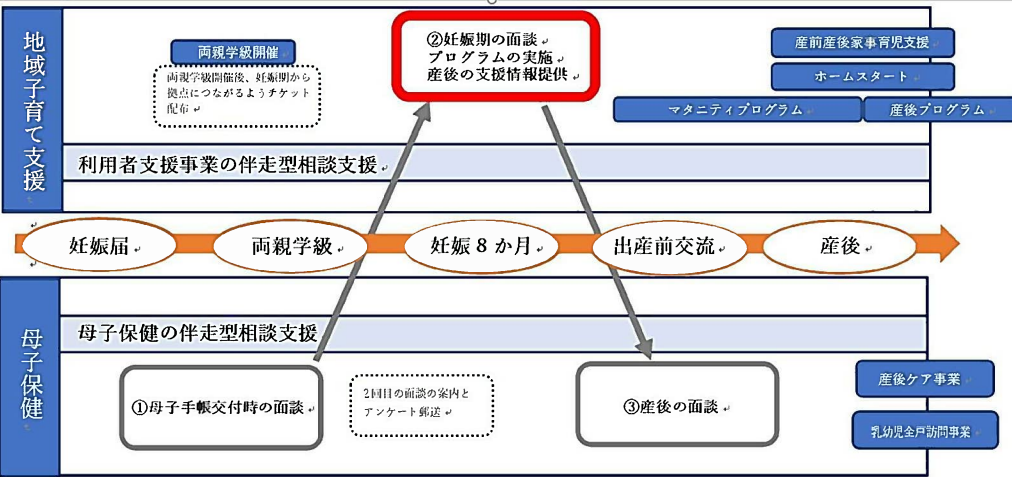


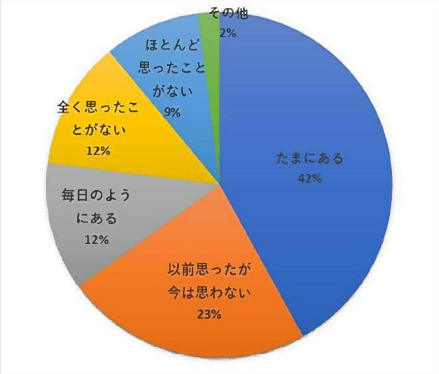
各委員から事前にいただいたご意見等

【テーマ】 魅力的な子育て支援の取組と今後の展開について

委員名	ご意見等
<p>阿部委員 (日出町社会福祉協議会)</p>	<p>出産・子育て応援交付金の実施について ～母子保健と拠点の連携について今後取り組みたいこと～</p> <p>核家族化が進み、地域のつながりも希薄となる中で孤立感や不安感を抱く妊婦、子育て家庭も少なくないと感じる。「出産・子育て応援交付金」の趣旨、基本的な考え方から、地域の関係機関と密に情報共有、連携しながら実施体制を構築することで、地域の子育て支援力の底上げが図られる。すべての妊婦・子育て家庭の更なる安心につながるという観点から、母子保健と協働する形で取り組みたいと考え、自治体に提案している。</p>  <p>拠点で2回目の面談(8か月頃)を行うことの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ マタニティ行事と抱き合わせて行うことで、面談への敷居が高まらないような創意工夫ができる ・ 拠点利用の親子の様子を見ることで実際に赤ちゃんに触れ、産後の生活を具体的にイメージできる ・ 拠点の良さ「交流の場」を活かし、産前から仲間づくりの場に行える ・ 面談に来れない人に対して、訪問（ホームスタート）など柔軟に対応できる ・ 面談後、顔見知りになることで、拠点の子育てイベント実施時に気軽に相談を行う機会を設けることができる <p>(参考) 両親学級参加者のうち 89%が拠点を継続して利用 両親学級参加者のうち 31%がホームスタートやファミサポの子育てサービスを利用</p>

委員名	ご意見等
安藤委員 (大分県小学校長会)	<p>自分の立場としては、学校教育の充実です。学校が「豊かで温かい学びの場」となるよう、経営努力を続けます。家庭・地域と連携を図るとともに、教職員にもやりがいを感じてもらえるような職場を創りたいです。</p>
岡田委員 (大分大学教授)	<p>社会全体の多忙化や個人主義の強まりの中で、つながりの少ない状態で子育てが行われている傾向があるように思います。しかし、つながった場合には、今時の子育ての人もつながりを肯定的に感じるようですし、世代間交流の中で自分たちが持っていない生活経験や子育ての知恵についても興味があるように思います。強制されていると感じずに子育ての中でのつながりを増やすためには、自主的・主体的に子育て支援を行おうという意欲のある人・組織と子育て中で子育てをもっと楽しみたい・少し悩みがある人を有効に結びつける情報発信やコーディネートが必要と感じています。</p> <p>以前よりも多くの障がいや子育てしにくい状況が存在する今日だけに、子育てを軸に新しい人ともつながり学び楽しむ関係を増やしていく必要があると思います。個人的には小学校から高校の親父の会などの活動を継続しています。校種別の取組を少し拡大して乳幼児期から子育て中の夫婦が先輩世代とつながりやすくする取組を行えればと考えています。</p>
川原委員 (大分県私立幼稚園連合会)	<p>魅力的な子育て支援の取り組みと聞き、子どもの最善の利益が守られる社会にならなければいけないと考えます。保護者の社会的役割も理解していますので、保育所、幼稚園、認定こども園の子どもたちの保育も充実できていると考えています。今後も乳幼児期の保育の質が向上できるよう、不適切な保育が繰り返されることのないよう子どもの権利条約にも触れ研修を実施していきます。</p> <p>地域の子育て支援事業は継続的に、各地域の教育の拠点となる公立・私立の保育所、幼稚園、認定こども園が、同年代のお子さんを育てる保護者同士のつなぐ役割や、同じ悩みを話し合える懇談や座談会などを定期的に開催することが今以上に必要だと考えます。また、市町村が行う定期健診以外で子どもたちの発達段階を知る保育士・教諭・保育教諭が子どもの様子を見て保護者と話すことができるので、行政や関係機関をつなぐ役割も担えらると思います。</p>
川村委員 (愛育学園はばたき)	<p>「魅力的な子育て支援」について、私や他のケアリーバー（社会的養護経験者。男女いずれも含む。）の声を二点紹介したい。</p> <p>①ケアリーバーの妊娠・出産・子育てにともなう様々な不安や困りへの対応（経済的支援、精神的ケア、妊婦や赤ち</p>

委員名	ご意見等
	<p>やんに必要な物資の提供、家事・育児に関する技術的助言、定期訪問による相談支援サービス、必要な・有益な情報提供などの支援)を充実させてほしい。</p> <p>②ケアリーバーの「ママ友会」のような意見交換等を行う交流の場(対面・オンライン)がほしい。そこで、妊娠・出産・子育てを経験したことのある、または現に経験中のケアリーバーの先輩からいろいろな話(困った経験、役に立った話、トラブル・緊急時の対応方法、頼れる人や機関の紹介などの実体験に基づく助言あるいは励ましなど)を直接聞きたい。こうした交流会の募集や運営主体については、ケアリーバー本人たちによる発信のほうが手を伸ばしやすいと感じている。</p>
<p>神田委員 (大分県保育連合会)</p>	<p>子育て支援とは「我が子を育てる事が楽しい」「我が子が愛おしい」と保護者が心より思えるようになる為の支援だと常々考えています。幼児教育の無償化、保育環境の整備、一時保育や病児保育の充実等、昔に比べ公的援助が厚くなっていると思います。しかし私は必ずしも、保育サービスが進めば子ども達が幸せになるとは思いません。例えば、延長保育の時間を長くすればその分迎えが遅くなる。子ども達は早くパパやママに迎えに来てもらいたい。でも保護者は子どもと一緒にいない時間が楽で、自分の自由になる時間を持ちたくなるといった事もあります。</p> <p>国は無園児の定期預かり事業を始めるとのことですが、そのことで全ての子ども達の虐待防止や子どもの発達を促す結果にはならないと思います。岸田内閣の異次元の少子化対策を行うのであれば、例えば「1歳児になれば9:00~12:00の間、無償で保育教育を受ける義務を行う。就労等の理由で保育を必要とする場合はその前後の時間やその年齢に限らず保育教育を受けることができる」といった全ての子どもが平等に公的に守られる施策等も考えられるのではないかと考えます。</p> <p>「子育て支援」ではなく「子育て支援」を考えて欲しいです。</p>
<p>佐々木委員 (公募委員)</p>	<p>1. 求めたい子育て支援</p> <p>一時預かりなどを子どもと少し離れて自分を取り戻す時間の確保が出来るサポートを充実してほしいと感じています。保育園だけではなく公民館や子ども食堂でもいいかもしれません。子どもの世話をしなくても周りから責められず、大人同士の会話を楽しむことができる時間は子育てにおいても大切だと思います。</p> <p>2020年制作のドキュメンタリー映画「ママをやめてもいいですか?」の制作時に取った独自アンケートによると、77%の母親から「ママをやめたい」という問いに対して、一度は思ったことがあると回答されました。(図1)</p>

委員名	ご意見等														
	<p>私自身も「ママをやめたい」と思ったことがあります。2人目を妊娠した平成20年の事です。大きなお腹を抱えて家事育児に追われたためか切迫早産と診断されました。切迫早産は出来る限り安静にする必要があります。預かり保育をお願いしようと思ったところ、1日約7,000円かかることが分かり負担が大きかったため断念しました。体を満足に動かすことが出来ない中で娘の世話をしながら家事をすることは肉体的にはもちろん精神的にも辛かった思い出があります。</p> <p>【図1】ママをやめたいと思ったことはありますか？</p>  <table border="1"> <caption>図1: ママをやめたいと思ったことはありますか？</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>たまにある</td> <td>42%</td> </tr> <tr> <td>以前思ったが今は思わない</td> <td>23%</td> </tr> <tr> <td>全く思ったことがない</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>毎日のようにある</td> <td>12%</td> </tr> <tr> <td>ほとんど思ったことがない</td> <td>9%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>出典：映画「ママをやめてもいいですか？」</p> <p>2. なぜ育児はストレスがたまるのか？</p> <p>育児でストレスがたまることは多数ありますが今回は3点あげてみました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①親として常にふさわしい態度が求められること ②休みがないこと ③子どもに振り回されて自らの行動に裁量がなくなること <p>①親として常にふさわしい態度が求められること</p> <p>「感情労働」は、近年注目されている新しい概念で、アメリカの社会学者ホックシールドにより提唱されました。相手の精神を特別な状態に導くために、自分の感情を誘発または抑圧することを職務とする「精神と感情の協調」が必要な労働のことをいいます。</p> <p>育児はまさにこの感情労働です。育児をしている時は自分自身の感情をコントロールし、例えイライラしても落ち着いて、親としてふさわしい子どもに合わせた言葉や態度で対応することが常に求められます。</p>	回答内容	割合	たまにある	42%	以前思ったが今は思わない	23%	全く思ったことがない	12%	毎日のようにある	12%	ほとんど思ったことがない	9%	その他	2%
回答内容	割合														
たまにある	42%														
以前思ったが今は思わない	23%														
全く思ったことがない	12%														
毎日のようにある	12%														
ほとんど思ったことがない	9%														
その他	2%														

委員名	ご意見等												
	<div data-bbox="600 263 1579 550" style="text-align: center;"> <p>おとなの価値観、自分の価値観からではなく、子どもの関心や気持ちに寄り添って判断 「共感しながら」</p> <p>矛盾する二つの役割</p> <p>保育者として客観的な判断 「感情をコントロール」</p> </div> <p>②休みがないこと</p> <p>図2の育児によるストレス調査の結果でも「自分の時間が持てない」が53.3%と過半数を超えています。育児は連続して続いており休む暇もなく、自らの感情に戻る時間が限られてくることによってストレスをより感じることとなります。また、ワンオペ育児で「パートナーや周囲の協力がいないこと」なども要因の一つかもしれません。</p> <p>【図2】育児中でストレスを感じることは？</p> <div data-bbox="622 801 1019 1193" style="text-align: center;"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ストレスを感じる理由</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の時間が持てない</td> <td>53.5%</td> </tr> <tr> <td>パートナーや周囲の協力がいない</td> <td>15.8%</td> </tr> <tr> <td>子どもと一緒にいる時間が少ない</td> <td>12.1%</td> </tr> <tr> <td>責任の重さを感じる</td> <td>11.1%</td> </tr> <tr> <td>お金がかかる</td> <td>7.5%</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>出展：(株)キッズライン ネット調査</p> <p>③子どもに振り回されて自らの行動に裁量がなくなること</p> <p>育児は命を預かっている責任の重さと、自らの行動を制限されることが多々あります。例えば子どもが口に物を入れるのを防いだり、高いところから落ちないように気を配ったりと常に目を離すことが出来ずに緊張状態が続きま</p>	ストレスを感じる理由	割合	自分の時間が持てない	53.5%	パートナーや周囲の協力がいない	15.8%	子どもと一緒にいる時間が少ない	12.1%	責任の重さを感じる	11.1%	お金がかかる	7.5%
ストレスを感じる理由	割合												
自分の時間が持てない	53.5%												
パートナーや周囲の協力がいない	15.8%												
子どもと一緒にいる時間が少ない	12.1%												
責任の重さを感じる	11.1%												
お金がかかる	7.5%												

委員名	ご意見等
	<p>す。また、訳も分からず突然泣き止まなかったり出掛けるタイミングでおむつ交換に負われたりと子どもから振り回されることも多くあります。</p> <p>育児を仕事と置き換えて考えてみると分かりやすいかもしれません。図3は、1980年にカラセックが提唱した仕事要求度・コントロールモデルです。職場において仕事の量が多ければ多いほど、また質的要求も高ければ高いほど労働者のストレスは高まります。一方で労働者側に仕事のコントロール能力や裁量権が与えられていればストレスは緩和されることが分かっています。育児はまさに「命を預かる」責任の重さと自らのコントロールが低い状態が続くことから高ストレスとなる可能性が高いと私は感じています。私自身も家事育児に毎日追われる中で会社員の夫の昼休憩1時間を羨ましく思っていたことを今では懐かしく思います。</p> <div data-bbox="689 595 1151 1013" data-label="Diagram"> </div>
<p>佐藤委員 (公募委員)</p>	<p>全国には、子育て支援の中にダブルケアの独自の取り組みを行なっている団体が存在します。子育て支援拠点で『ダブルケアカフェ』を開催する自治体やNPOです。</p> <p>ダブルケアラーが参加する他に、今後そのような状況になりそうなケアラー予備軍の方も参加されています。同席するのは、行政保健師や、地域包括支援センターの職員さん等です。ダブルケア研究で『自身が困った時に助けてくれたのは誰か?』のデータがあります。困り事は、どうしても要介護者関係の方々に話がしやすい。ということもあり、ケアマネージャーさんや家族という名前が連なりますが、子育て支援センターの職員さんが最下位です。ダブルケアは家庭の困り事として理解はあるものの、当事者は子育て支援の方々に話がづらい状況にあるわけです。</p> <p>今後は、このような数字を脱却できるよう、ダブルケアはママやパパの困り事としてしっかりと子育てや地域の課題</p>

委員名	ご意見等																																				
	<p>として定着していく事を願います。そして、負担を抱えたとしても、当事者を理解してくれる居場所を作ることで、育児も介護もひとりで頑張りすぎない。そのような意識を私たちが啓発していけたらいいな、と感じています。</p> <p style="text-align: center;">ダブルケアラー支援の実態</p> <table border="1" data-bbox="629 379 1146 683"> <thead> <tr> <th></th> <th>現在直面中(%) (N=145)</th> <th>過去に直面(%) (N=115)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夫</td> <td>57.24</td> <td>48.70</td> </tr> <tr> <td>友人</td> <td>22.76</td> <td>26.96</td> </tr> <tr> <td>ケアマネージャー</td> <td>19.31</td> <td>16.52</td> </tr> <tr> <td>親戚</td> <td>17.24</td> <td>18.26</td> </tr> <tr> <td>ホームヘルパー</td> <td>13.10</td> <td>13.04</td> </tr> <tr> <td>誰も助けてくれなかった</td> <td>12.41</td> <td>16.52</td> </tr> <tr> <td>保育士</td> <td>10.34</td> <td>7.83</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援の職員</td> <td>6.90</td> <td>5.22</td> </tr> <tr> <td>幼稚園の先生</td> <td>6.21</td> <td>6.06</td> </tr> <tr> <td>親、義理の親</td> <td>5.52</td> <td>5.22</td> </tr> <tr> <td>子育て支援センターの職員</td> <td>2.76</td> <td>2.61</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center; font-size: small;">出典 第1～3弾ダブルケア実態調査(N=1,894)</p>		現在直面中(%) (N=145)	過去に直面(%) (N=115)	夫	57.24	48.70	友人	22.76	26.96	ケアマネージャー	19.31	16.52	親戚	17.24	18.26	ホームヘルパー	13.10	13.04	誰も助けてくれなかった	12.41	16.52	保育士	10.34	7.83	地域包括支援の職員	6.90	5.22	幼稚園の先生	6.21	6.06	親、義理の親	5.52	5.22	子育て支援センターの職員	2.76	2.61
	現在直面中(%) (N=145)	過去に直面(%) (N=115)																																			
夫	57.24	48.70																																			
友人	22.76	26.96																																			
ケアマネージャー	19.31	16.52																																			
親戚	17.24	18.26																																			
ホームヘルパー	13.10	13.04																																			
誰も助けてくれなかった	12.41	16.52																																			
保育士	10.34	7.83																																			
地域包括支援の職員	6.90	5.22																																			
幼稚園の先生	6.21	6.06																																			
親、義理の親	5.52	5.22																																			
子育て支援センターの職員	2.76	2.61																																			
<p>首藤委員 (しげまさ子ども食堂)</p>	<p>1. 子どもが自分で行ける地域の居場所「キラキラ広場」</p> <p>現在子どもたちが学校や家庭以外に通うスポーツクラブや習い事など子どもが自ら選択して、自分の足で行ける居場所は少ない。保護者や祖父母などが送迎できなければ、子どもが行きたくてもその居場所を選択できない。送迎のシステムはもちろん必須だが、ハードルが高い。そこで、子どもたちの居住地域内で定期的を開催する広場を開設、地域住民が、子どもの自主性を尊重した遊びを安全に見守りながら、「知っている関係づくり」を構築しています。</p> <p>(おやつも用意) 現在3拠点を運営、今後増加予定。</p> <p>定期的に行うことで、子どもたちが自分で日程を把握し、予定を立てて参加するようになり、始めはケンカしたり暴言を言っていた子どもたちも宿題をしたり、おやつを分け合うようになるなど学校以外での社会性を学ぶようになった。保護者も子どもたちの様子を見て、必要となくみだと好意的に協力してくれるようになった。</p> <p>2. 子どもたちと大人と一緒に取り組む文化芸術活動</p> <p>大分県の「地域を担うNPO協働創出事業」を経て、プレゼンテーションと舞台パフォーマンスの発表会を年に1回開催している。(今年度は、令和5年2月19日開催) 半年以上の練習や伴走を重ねての開催だが、毎回練習の時には、地域の方がおにぎりをつくってくれたり、スタッフの送迎で、熊本まで研修に参加したり、関わった子どもたちにとって、最高の体験になるよう一生懸命サポートして本番を迎えている。</p>																																				

委員名	ご意見等																		
	<p>3. オンライン学習支援</p> <p>その他、活動内容を記載した資料を添付いたします。</p>																		
<p>祖父江委員 (地域子育て支援拠点 よいこのへや)</p>	<p>◆よいこのへやにおける取組み◆</p> <p>臼杵市子ども子育て課（母子保健グループ）／臼津助産師会／地域子育て支援拠点よいこのへやの三者共催で令和4年度計6回のプレママプレパパデーを実施中（以下）。来年度も持続可能な形を模索しながら継続が決定。</p> <table border="1" data-bbox="555 528 1816 683"> <thead> <tr> <th>①</th> <th>②</th> <th>③</th> <th>④</th> <th>⑤</th> <th>⑥</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R4. 5月</td> <td>R4. 7月</td> <td>R4. 9月</td> <td>R4. 11月</td> <td>R5. 1月</td> <td>R5. 3月</td> </tr> <tr> <td>対面開催</td> <td>コロナ感染拡大のため中止</td> <td>オンライン開催</td> <td>対面開催</td> <td>対面開催</td> <td>対面開催予定</td> </tr> </tbody> </table> <p>コロナ禍で受講の機会が減った母親学級・両親学級の内容（知識＋実技）に加え、地域での子育てや男性の家事育児参画の大切さを伝えたり、先輩ママパパや参加者同士が交流する時間を設けるなど、子育て支援視点からのプログラムも加えることにより、より地域性を活かした内容になっています。</p> <p>事後アンケートでも満足度は非常に高く、参加者も徐々に増えています。</p> <p>また、妊娠中から繋がりを持つことで、産後に拠点を利用する月齢が早くなり、育休中に存分に子育て支援を利用される方が増えていると感じます。</p> <p>ここ10年で出生数が約100人も減り、2021年はわずか出生数140人（住民基本台帳ベース）の臼杵市ですが、だからこそ、今から妊娠出産育児に入る方々1人1人の満足度を上げ、行政含めた支援者と利用者の顔の見える関係性を深めていくことで、夫婦で共に・地域で子育てを根付かせ、リピート率を上げていくことができるようなシステム作りに、引き続き取り組んでいきたいと考えています。</p>	①	②	③	④	⑤	⑥	R4. 5月	R4. 7月	R4. 9月	R4. 11月	R5. 1月	R5. 3月	対面開催	コロナ感染拡大のため中止	オンライン開催	対面開催	対面開催	対面開催予定
①	②	③	④	⑤	⑥														
R4. 5月	R4. 7月	R4. 9月	R4. 11月	R5. 1月	R5. 3月														
対面開催	コロナ感染拡大のため中止	オンライン開催	対面開催	対面開催	対面開催予定														
<p>高橋委員 (大分県助産師会)</p>	<p>結婚、子育てと魅力的に感じる事が一番大事だと思います。若い人にきくとあまり結婚願望がない、かえって自由な時間がなくなるといわれてます。また子供を産むと可愛いけど・・・夜中も起こされるし自分の時間がなくなって子育てしている人を見ると大変そうと話す若者が多い。経済的なサポートが入っても日々の生活の中で子育ては、大変、更に二人三人となると更に女性の負担が大きくなると次の行動にうつせないようである。</p> <p>そのメンタルサポートにいつでも対応できる拠点を作っていきたいと考える。</p>																		

委員名	ご意見等
<p>立川委員 (別府大学短期大学部)</p>	<p>大分県の市町村ごとに行っている、乳幼児医療費助成がすごくいいと思います。子どもを持つ家庭が苦勞することの1つに経済面があると思います。子どもは大人に比べて体調を崩しやすく、通院するたびにお金がかかります。そこでこの制度があることによって子育て家庭は助かると思います。</p>
<p>姫野委員 (大分県民生委員 児童委員協議会)</p>	<p>子育てを地域で支えるために関係機関、団体と連携して児童の健全育成のための地域活動の推進や、子育て環境づくりに努める。 子育て家庭と地域住民の集いの場として、子育てサロンの充実を図り、子育て家庭の孤立を防ぐことに努める。</p>
<p>広津委員 (中津市小楠児童クラブ ひまわり)</p>	<p>運営委員会、保護者会運営の児童クラブの支援員をしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、児童クラブの必要性は求められクラブ数は増加してきました。それに伴い利用者も増えましたが質的な面ではまだまだ未熟です。かつ、運営形態については、運営委員会に委託という不安定なクラブが多いのが現状です。改善の必要があると感じます。 ・保護者の抱える困りが複雑。 ・困りを抱える子どもが多い、以前とは困りの様子が違う。 (ADHD、LD などのように発達障害ではないが、落ち着きがない、幼い、低学年で身体は成熟しているが心は未発達などの子どもが増加傾向にある) ・乳幼児期の母親の引きこもり、孤独。 ↓ ○自身は抱える困りを解消しようとネット等利用して自分なりの答えを探しているが独りよがりになり、根本の解決にならず孤立。 ↓ ◎個別のケア、対応が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ●子ども達の安心・安全な居場所づくり ●安心して働くことのできる環境づくり

委員名	ご意見等
	<p>●地域・社会との繋がりづくり</p> <p>以上のことを念頭に置いて子ども達や保護者に寄り添い共に語り合える・帰ってこられる「場」を創り出して行きます。</p>
<p>正本委員 (大分県認定こども園 連合会)</p>	<p>認定こども園は、すべての子どもの最善の利益を目指し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ①就学前のすべての子どもに教育・保育を提供。 ②地域における子育て支援を行う。 <p>上記の機能が求められている。</p> <p>少子高齢・人口減少社会の中でも、上記の2点の機能を地域の拠点となり展開できるように、県・市町村行政とのコミュニケーションをとりながら、質の向上に励みたい。</p>
<p>宮脇委員 (大分県社会福祉協議会)</p>	<p>地域のだんらんの居場所としての子ども食堂・地域食堂の運営支援等、フードバンクの取り組み、人材養成研修・セミナー等など</p>
<p>山口代理人 (おおいたパパくらぶ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・産前産後の女性のうつ予防、孤育て解消を目的とした助産師への産前産後ケアの利用推進（子育てクーポンが利用できることの啓発含む）。 ・リアルマネー講座、親子で地域交流参画、親子外出の楽しさPRを目的にこどもと親子で実際に金銭やりとりも含めたイベント出店体験の開催。 ・防災士パパであり子育て経験パパ達が自身の家庭内防災体験やアウトドアを活かした子育て家庭に特化した遊びながらの命を守る防災啓発活動。 ・育休経験パパ達によるパパとママ、そして職場の3方向からの意思疎通を図る目的で『職場から能動的に男性に育休取得させるための育休シート』の発案及び実用啓発活動。
<p>吉田委員</p>	<p>今年、4月からこども家庭庁が発足しますが、2022年度の出生率は80万人を下回る見通しといわれ、それに対して国</p>

委員名	ご意見等
(大分県社会的養育 連絡協議会)	<p>の施策として異例の少子化対策を打ち出しています。</p> <p>大分県においては、子育て満足度日本一を目指し、次世代行動計画として『おおいた子ども・子育て応援プラン』にまとめられています。それらの中で子どもたちの育ちと支援、安心して住みやすい街づくりまでを構想として打ち出されており理想的な取り組みをされていると感じています。</p> <p>その中で地域支援サービスのあげられている子育て短期支援事業は各自治体が窓口となり、社会的養育の場で主に実施されています。他の支援と異なるのは、平日、休日問わず日中だけではなく、夜間を通して数日間お預かりできるサービスであることだと思います。今は、児童家庭支援センター、児童養護施設、里親宅などでお預かりしています。その認知度に低さ、そもそも、預けることに対しての間口の狭さを感じています。子育てに困りを抱えていたり、育児に疲れてしまっている家庭にとっては「ちょっと一休み」「一緒に子どもをみてもらう」よいチャンスになっています。ハードルを低くして、利用しやすいサービスとしていくことで子育てしやすい町になっていくと思います。また、そのための基盤となる居場所の充実とサービスについての周知にも更に取り組んでいただければと感じています。</p> <p>また、自治体によっては始められている「アウトリーチ型」の訪問事業についても、地域の現状、様々な子育ての困りに早期に対応できる事業であると伺っています。このような地に足をつけた活動を充実させ、広げていくことが大切だと思いますし、子どもの問題に意識の高い大分県の取り組みに期待しています。</p>